

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 川津章弘	電話番号	0852-22-5133
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	しまね和牛生産振興事業		
目的	(1) 対象	畜産農家	
	(2) 意図	産肉能力の高い種雄牛の造成や育種価、受精卵移植等を活用した繁殖雌牛群を整備する。 また、畜産経営の規模拡大や子牛価格の安定について支援を行うとともに、しまね和牛の肉質向上やPRを行う。	
事業概要	<p>「しまね和牛」について、市場での評価を高め、ブランド確立・強化に向けての事業を行い、もって肉用牛経営の安定を図る。</p> <p>① 能力の高い種雄牛を新規造成するため、直接検定や後代検定の実施する（種雄牛造成対策） ② 繁殖雌牛の能力向上を図り、育種価分析を用いた肉用牛の改良を促進する（繁殖雌牛改良対策） ③ 子牛価格の安定について支援を行う（子牛価格安定対策） ④ しまね和牛の生産力強化や品質向上のための技術指導やブランド力強化のための取組を実施する（生産販売強化対策） ⑤ 平成29年9月宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会での上位入賞をめざし、出品牛の選抜や飼養管理指導、本戦への出場経費等を支援する</p>		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 県有種雄子牛産子の県内市場占有率	目標値		35.0	36.0	38.0	40.0	%
		取組目標値						
	式・定義 県内子牛市場における県有種雄牛産子上場頭数/総上場頭数	実績値	34.0	34.0				
		達成率	-	97.2	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	32,567	44,858
うち一般財源 (千円)	31,400	41,217

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 繁殖農家戸数は948戸（H27:1,000戸）、繁殖雌牛頭数は8,920頭（H27:8,470頭） 子牛の上場頭数は4,930頭（H27:4,953頭） 県内と全国の平均子牛取引価格は去勢で867千円と864千円、雌で713千円と759千円 県内子牛市場における県内種雄牛のシェアは34%（H27:34%） 県内子牛市場における県内及び県外種雄牛産子の平均取引価格は、758千円と811千円（上場上位10頭（島根3頭、県外8頭）の価格） しまね和牛肉の上物率（肉質4・5率）は67.8%（全国平均80.3%）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 繁殖牛が平成3年以來の大幅増加（中核的農家の増頭） 子牛取引価格は、全国平均並みに改善 平成28年2月に県の基幹種雄牛に指定した「久茂福」は、その能力が全国トップクラスであることから、平成28年8月、家畜改良事業団事業団の選抜種雄牛に、平成29年3月、国の共同利用種雄牛（和牛の改良推進上重要な種雄牛）に指定 県有種雄牛精液の販売本数が増加 H26：5,745本⇒H27：8,572本⇒H28：11,126本 しまね和牛肉上物率の上昇 H26：59%⇒H27：65%⇒H28：67.8%

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内種雄牛産子が少なく、その価格は県外種雄牛産子に比べ低い しまね和牛の上物率が依然として10%以上劣る 子牛価格の高騰（生産コスト上昇）が肥育経営を圧迫 生産者組織の活動の弱体化 子牛価格が低下した場合の生産者のモチベーション低下を懸念
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 和牛生産を巡る産地間競争が激化している 競争に勝ち抜ける高能力種雄牛が継続的に確保できていない 繁殖雌牛の増頭、世代交代の効果がまだ発現していない 高齢化により小規模繁殖農家戸数が継続して減少している 県内外へのしまね和牛のPRが不足している
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「久茂福」等に続く、全国トップクラスの肉質としまね和牛特徴（体格、繁殖性、脂肪の質等）を兼ね備えた次世代種雄牛の造成 高齢（低能力）繁殖雌牛の更新と中核的農家における遺伝的高能力繁殖牛の増頭 生産者組織と一体となったしまね和牛のブランド力を強化する取り組みの展開 しまね和牛生産の新たな担い手の確保

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<p>①次世代種雄牛造成の強化・スピードアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 超優秀雌牛の受精卵を活用し、農林高校や農林大学校と連携した候補牛の効率的確保 ゲノム育種価評価による選抜とJA畜産総合センター等と連携した産肉能力の早期実証 <p>②繁殖雌牛の世代交代による改良促進と増頭に向けた生産基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 第12回全国和牛能力共進会（全共）への出品対策を兼ねた戦略的改良の推進 国やJA等と連携した生産基盤の増強 <p>③ブランド力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな美味しさ指標を活用し、観光産業等と連携したPRの展開（県外への発信の強化） 第12回全共でのトップ獲得をめざし、生産者組織と連携した取組の継続実施（県内への発信の強化） <p>④新たな担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランド力強化による「しまね和牛」経営の魅力PRと関係機関と連携した新規就農志向者への支援体制の確立・強化
